

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393600024		
法人名	株式会社サカイ		
事業所名	グループホームあじさい「ほてい」		
所在地	愛知県江南市五明町太子堂133		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一建物内に隣接している小規模多機能型居宅介護事業所と連携することにより、グループホームでありながら、常に外部から人の出入りがあり、地域との接点の確保や、小規模多機能型居宅介護利用者との交流など、開放的なホームづくりに活かされている。できるだけ自立した生活、自分のことは自分で行える環境作りに取り組んでいる。また、寄り添うことで一人ではない、孤独ではないと思って頂けるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2393600024-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じフロアに小規模多機能事業所を併設していることで、利用者の身体状態や生活状況に合わせたホームへの移行が可能である。利用者にとっては、生活環境を大きく変えることなく移行することが可能である。行事についても併設事業所と連携して行われており、年間を通じて行われている行事の際には、多くの家族の参加が得られており、家族との交流の機会をつくっている。1ユニットのホームでもあるため、日常的な申し送りの時間を通じた職員間の意見交換の時間がつくられており、利用者一人ひとりの意向等に合わせた支援につなげる取り組みが行われている。職員間で検討を行いながら、食事の際には、利用者により他の方とは異なるメニューを用意する等の取り組みにつなげている。また、法人で研修会の取り組みが行われており、職員の資質向上に向けた取り組みも行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年2月2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所に掲示しており、唱和する等で浸透を図っている。しかし、継続的な話の場は設けていない。また、理念自体が10年前のもので、見直す必要がある。	法人の基本理念に基づく6項目の目的がつけられており、毎日の朝礼時に職員で唱和し、理念の共有につながっている。また、朝礼の時間に管理者より具体的な内容を伝えることができ、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の買い物、自治体の行事等に参加しているが、十分ではない。また、ホーム担当委員(地域交流担当)を設け、散歩時などは、こちらからあいさつを交わすように啓蒙している。	地域の方との交流については、併設事業所とも連携しながら行われており、地域の盆踊りに参加する等の交流が行われている。また、近隣の和菓子屋との交流もあり、ホームの行事への協力も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学のご希望があればご希望に応じて案内・説明を行っている。地域の方への発信方法を探している段階であり、取り組みはまだ不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	外部からの意見を取り入れ、朝礼などで周知できるようにしている。盆踊りの時には、会議内で参加について打ち合わせができ、特別席などを設けて頂いた。ただ、非常災害時の協力体制作りなど思うように進んでいない。	会議の際には、他の介護事業所の方の参加が得られており、ホームの運営への反映につながっている。また、資料に基づきながら報告を行っており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	会議に地域の方や家族の出席が得られていないことがあるため、継続したホームからの働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは連絡を随時行い、疑義のある場合等も協議を重ねている。	市内の介護事業所が集まる連絡会には、併設事業所とも合わせて出席しており、情報交換の機会につなげている。また、家族介護教室等にはホームからも講師役で参加しており、市の福祉施策への協力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中(9:00~16:00)は玄関の施錠はせず、夜間のみ防犯の意味から施錠している。毎月のユニット会議で事例などを報告し、意識の向上に努めているが、まだまだ十分ではない。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内に施錠を行っておらず、窓からも外に出ることができるため、職員間での見守りに取り組んでいる。また、研修会の取り組みが行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人として虐待検討委員会を設けて、事例を取り上げている。また、法人として毎月虐待防止のスローガンを掲げ、朝礼にて啓蒙している。しかし、不適切ケアなど虐待に発展しそうな場面がみられるので、意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修等の参加は促しているが、事業所内での学ぶ機会、話し合い等は行なわれていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者及び担当者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時等を活用して、意見、要望、苦情等を吸い上げられるよう、働きかけている。また、法人としてご家族様アンケートを実施し、意見をより良いホーム運営に役立てられるよう取り組んでいる。	ホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。要望等の把握につなげるため、アンケート活動等の取り組みも行われている。また、毎月のホーム便りの際には、担当職員による個別の報告も添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議等で、意見や提案ができる機会を設けている。	1ユニットのホームでもあるため、日常の申し送りの時間に職員間で意見交換を行っており、意見がホームの運営に反映できるように取り組んでいる。また、法人で管理者、リーダーが集まる会議があり、現場職員からの意見等が報告されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々が相談できる環境ではあるが、やりがい、職場環境の整備等については不十分である。職員によっては業務時間内に業務が終了しないので、業務内容の見直しを含めて検討が必要。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	初任者研修や外部研修などの機会を設けている。また、新入社員研修、基礎研修、リーダー研修、管理者研修など、段階的な社内研修の導入し、各人のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修等へ参加した際、交流することができるが、取組としては十分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	導入時の情報をファイルにまとめ、その情報を土台に本人との関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	導入時の情報をファイルにまとめ、その情報を土台に、面会時等に家族との関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者、担当者、家族間で方向性を確認し、カンファレンス等で情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一部では、協働する関係性が作られているが、他方では、介護に偏重してしまっている側面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との関係を築きながら、本人を中心としつつも、家族と本人との関係性にも配慮しているが十分とはいえない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族、知人等の面会等、知人宅への訪問の支援を通じて、関係性の継続が図られているが、積極的な働きかけや取り組みとしては不足している。	利用者により、入居前からの関係の方がホームに訪問する等、関係継続につながる機会が得られている。家族の協力も得ながら行きつけの美容院の継続も行われている。また、家族との買い物や外食の他、葬儀への出席の機会もつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お茶やレクの時間など食事以外に集まれる時間を設けている。利用者様同士が対立しそうなときは、職員が間に入れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅復帰のために退去された利用者様の家族より、現状のお話があるなど、時々やり取りをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との話し合い、日常会話から、一人一人の思い・意向に沿えるようカンファレンス等を行って検討している。	1ユニットのホームでもあるため、利用者に関する意見交換を日常的に行っており、利用者に関する意向等が職員間で共有できるように取り組んでいる。また、毎月のカンファレンスの機会がつけられており、センター方式のアセスメントへの反映につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初期の情報を土台としながら、本人、家族等から随時得られた情報を共有し把握に努めているが、新人スタッフが多く、共有しきれていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録、個人ノート等に状況を記入し、共有と把握に努めている。ただ、居室にて過ごす時間が長い方への取り組みは十分とはいえない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングのための会議を行い検討している。作成に関しては、計画作成担当者に委ねられている。	介護計画は6か月で見直しが行われており、毎月のカンファレンス等でのチェックを通じて、変化に合わせた見直しも行われている。また、日常的にもケアプランチェック表への記載を行いながら、介護計画の内容に関する日常的な確認が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録、個人用のノート等に基づいて、不定期にカンファレンスを行い、実践に活かしている。但し、職員により記録への記入のばらつきがあり、今後はばらつきをなくす取り組みが必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要に応じて柔軟に対応する方針であるが、現在のところ十分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個別に働きかけているが、事業所内で完結してしまう傾向にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医を中心として、その他の医療との連携を図っている。	協力医が毎週訪問しており、日常的なチェックと状態変化に合わせた柔軟な対応が行われている。利用者により、今までのかかりつけ医を継続している方もおり、ホームも必要な支援を行っている。また、週1回の訪問看護による健康チェックも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師等と、日常的な報告、相談を行うことにより連携を図っているが、訪問頻度が週に一度と少なく、認識の違いもあり連携が十分ではない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、管理者、担当者が定期的に足を運び、本人の容体の把握、関係者との情報交換等に努めている。今後、今以上に関係作りを行う必要がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	結果的に終末を迎える事があっても、ターミナルに取り組むには、環境的に難しいのが現状である。	ホームでの看取りを見据えた支援を前向きに考えているが、現状のホームの体制から困難であるとも考えている。利用者、家族の意向等にも合わせながら、ホームでの生活の継続につなげる取り組みが行われている。	家族からもホームでの生活を望んでいる意向もあるため、ホームでも法人全体での取り組みが行われている。継続したホームの体制づくりの取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	不定期に会議などで勉強会を行っているが、全ての職員が適切な処置を行えるようになるには、更なる取り組みが必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は定期的(年2回)に行われているが、地域との協力体制は十分ではない。運営推進会議にて話し合い協力体制を築きつつある。	年2回の避難訓練の際には、併設事業所との合同で実施しており、夜間想定も含めて、職員間の連携に取り組んでいる。訓練の際には、消防署の協力も得られており、助言等につなげている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄も行われている。	現状、地域の方との協力関係については、継続したテーマでもある。ホームからの継続的な協力関係の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議、カンファレンスで取り上げ、適宜指導を行っているが、場面によっては十分でない場合がある。	職員による利用者への対応については、法人の専門の委員会による毎月のスローガンを掲げており、職員間で唱和を行うことで、日常的な意識向上につなげている。また、接遇面での研修課の機会もつくられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員個人個人が心がけて、できるだけ自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる限り、本人の希望に沿えるよう、支援しているが、他の業務の方に合わせてしまう部分が多く、改善が必要である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理美容院等も含め、本人の希望に沿うよう支援している。本人の思いが表出しがたい方への支援は十分ではない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、片付け等が可能な利用者と職員とで一緒に行っている。ただ、年月を経るとともに利用者様の出来る部分が少なくなってきたのも事実で、一緒に作業をするための工夫をする必要がある。	メニューを職員で考えており、買い物、調理、片付け等、利用者も出来ることに参加した取り組みが行われている。日常的なおやつ作りや、利用者によりご飯からパン食等への好みの対応も行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリーは厳密に考えてはいないが、食事量、水分量を記録し把握に努めている。足りていない方への支援が十分でない場合が見られる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の力に応じた口腔ケアを行っているが、利用者様によっては本人任せになってしまい、確認ができていないことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	時間帯による排泄を記録して把握に努め、本人の様子によって働きかけている。	利用者全員の排泄記録を残しており、日常的な申し送りを通じた意見交換も行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。利用者により、排泄状態が改善した事例もあり、排泄に関する医療面での連携にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の間隔を確認し、必要に応じて下剤を使用しているが、運動やマッサージなどの予防に関する取り組みは十分ではない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	毎日入浴準備は行っており、なるべくご希望の時間に入浴して頂けるように努めているが、日勤帯の就業時間の都合で一部の方にはこちらの決めたタイミングでの入浴を強いている。	毎日の入浴の準備が行われていることで、利用者の意向等に合わせた入浴が行われている。入浴を拒む方には、職員が交代する等の対応が行われている。また、柚子湯や菖蒲湯等の季節の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自室、リビング等、希望に応じて休息出来る様支援している。また、夜間は定時の巡視にて安心して頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容や用法、用量については、個人ノート、申し送りによって把握、確認に努めているが、職員によってはまだまだ意識が足りない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一部では、楽しみごと、気分転換等行なっているが、他方では、十分に支援できていない側面もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、買物等は希望に沿って行っているが、家族、地域と協力した外出については取り組めていない。希望が表出が難しい方には取り組みが十分ではない。	ホームでは、利用者が日常的に外出できるように取り組んでおり、周辺の散歩やホーム近くにあるコンビニへの買い物等が行われている。また、季節に合わせた花見や初詣等の外出行事が行われている他、個別の外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人、家族の希望と、本人の力に応じて、所持、使用ができる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一部の利用者様へは支援できているが、ほとんどの方へは支援ができていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度については管理している。畳やソファを置くことにより生活感を取り入れている。また、飾り付け等を通じ、季節感を感じて頂ける空間作りに取り組めていない。	リビングは落ち着いた色彩の壁紙である他、畳コーナーで過ごすことができるため、利用者が日中をのんびりと過ごすことができる環境である。また、リビングや通路の壁には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを置くことで、空間を仕切り、居場所づくりに工夫をしている。今後はその空間を利用して頂くための取り組みが必要である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人、家族に使いなれたものを持参するよう働きかけ、使いなれた家具などを使って過ごすことができるよう取り組んでいる。	居室については、利用者の意向にも合わせながら、様々な家具類の持ち込みや家族との写真を掲示している方がいる一方で、シンプルな雰囲気な方もいる。また、ベッドではなく、畳マットを敷いて、布団で生活している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレと居室のドアを色違いにして区別がつく様にしたり、張り紙や置き場所等に配慮し、出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		